

原子力艦出港時及び出港後における放射能調査結果

艦名 サンフランシスコ
 寄港地 横須賀港
 寄港期間 平成 28年 8月 14日 14:00 ~ 平成 28年 8月 19日 13:51
 分析担当機関 公益財団法人日本分析センター

試料名	採取地点	⁶⁰ Co	⁶⁵ Zn	¹³⁷ Cs	¹⁴⁴ Ce
海 水 (mBq/L)	艦首	* *	* *	19 ± 0.7	* *
	艦中央	* *	* *	3.5 ± 0.35	* *
	艦尾	* *	* *	4.0 ± 0.37	* *
	追跡中港内	* *	* *	3.4 ± 0.40	* *
	追跡中港外	* *	* *	3.0 ± 0.35	* *
海 底 土 (Bq/kg乾土)	停泊地点付近				
	試料1	* *	* *	9.6 ± 0.57	* *
	試料2	* *	* *	14 ± 0.6	* *
	試料3	* *	* *	8.9 ± 0.53	* *
	試料4	* *	* *	9.2 ± 0.53	* *
	試料5	* *	* *	2.7 ± 0.41	* *

サンフランシスコの停泊地点は13号バースである。

備考1 本調査は、公益財団法人日本分析センターにおいて原子力規制庁監視情報課放射線環境対策室が指示した分析方法により、ゲルマニウム半導体検出器によるγ線スペクトロメトリーを行い核種を同定し、上記4核種について定量を行ったものである。

備考2 分析値が分析目標値(別紙参照)以上のもの、または分析目標値未満であっても計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについては数値を記載し、それ以外のものについては* *で示した。

備考3 以下の試料では、上記4核種以外の人工放射性核種として¹³⁴Csが検出された。

海水(mBq/L) 艦首:3.6±0.50
 海底土(Bq/kg乾土) 試料2:2.5±0.53

備考4 海水(艦首)の¹³⁷Cs分析値が他の試料に比べ高い値を示したが、¹³⁴Csと¹³⁷Csの放射能比が福島第一原子力発電所事故に由来することを示しており、さらに、分析残試料に海底土の沈積が確認されたことから、福島第一原子力発電所事故に由来する放射性セシウムを含む海底土の混入に起因するものと考えられた。